

あすなる分教室

学部テーマ「人との関わりを広げる授業づくり」

～アセスメントチェックリストを活用した授業改善～

1 テーマ設定の理由

新学習指導要領の改訂のポイントである「主体的・対話的で深い学び」については、あすなる分教室児童生徒の実態から「主体的に学ぶ姿」を「人との関わりを広げる」として捉え、1年次は集団で行っている「始まりの会」に焦点をあて、2年次はICTを活用しながら要求表出や人との関わりを広げる授業づくりに努めたい。さらにアセスメントチェックリストに継続して取り組み、児童生徒の実態について再確認しながらコミュニケーション分野における課題について検討し、授業改善につなげる。

2 研究方針

- (1) コミュニケーションに着目した実態把握及び課題について共通理解を図る。
- (2) 新学習指導要領について理解を深め、あすなる分教室の自立活動の在り方を再確認する。
- (3) 「始まりの会」の見直し及びICTを活用した授業実践に取り組む。

3 令和2・3年度 研究経過・内容 ※4月と2月に全職員共通の内容を伝達する機会を設定

月	内容
令和2年度 5月	今年度の方向性について アセスメントチェックリストの確認と実施
6月	児童生徒の発達段階について
7月	学習指導要領についての学習会
8月	学部研修「拘縮のある児童生徒への関わり方一手指や腕を伸ばす・ほぐすー」
9月	「始まりの会」における児童生徒の課題と手立て
10月	
11月	研究授業（午後） 自立活動：始まりの会 授業研究会
12月	実践のまとめ
1月	実践報告、全校研究会に向けて 全校研発表内容検討・確認
令和3年度 5月	アセスメントチェックリストについての確認と実施
6月	児童生徒の発達段階について
7月	実践に向けて
8月	学部研修「Microsoft Teams の基本操作」
9月	実践① オンライン ¹ 学習（午前） 自立活動：始まりの会
10月	実践②、③ オンライン学習（午前・午後） 自立活動：始まりの会

¹ リモート（遠隔）学習の中にはリアルタイムだけでなく、オンデマンドも含まれる。ベッドサイド児童生徒とホールの児童生徒の関わりにおいて、同時双方向型であることを大切にしたいため、「オンライン」と表記する。

11月	実践のまとめ
12月	実践のまとめ
1月	実践報告、全校研究会に向けて 全校研発表内容検討・確認

4 研究実践

(1) 1年次

ア アセスメントチェックリストによる実態把握

昨年度の学部研究で取り組んだ広島県立福山特別支援学校作成の「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト」に引き続き取り組み、全職員で共通理解を図った。また、課題とする項目を長期目標や個別の指導計画に活かして作成することができた。

イ 授業実践「始まりの会」

アセスメントチェックリストの結果から始まりの会における指導目標を設定した。また、始まりの会のねらいと工夫点を再確認し、課題点や手立てについて話し合った。

【ねらい】①授業の始まりを意識する。 ②本日の活動に見通しをもつ。

③集団の一員であることを感じる。④教師や仲間との関わりを通して、自分を表現する。

【手立て】

- ① 登校してきた児童生徒に注意を向けるような声掛けや指さしを行い、目の不自由な児童生徒に適宜周囲の状況が分かるような声掛けをすることで他者を意識できるようにする。
- ② 顔を拭いたり髪を梳かしたりすることで、登校を意識させる。
- ③ 出席確認の際、順番を意識したり視線を上げたりできるように、ぬいぐるみを活用する。
- ④ 呼名に対して自発的な反応を待ち、見守りの姿勢を大切にする。反応が見られない場合には反応を促したり繰り返し働きかけたりする。表情の変化、身体の動き、発声等で応えることができた場合には表出をフィードバックしたり意味付けしたりすることで反応の確立を図ることができるようにし、児童生徒の反応を引き出す。
- ⑤ 係活動の当番を決める手段としてルーレットを使用し、自分の写真カードをはる場所を選択させることで意思表示の場面を設定する。

ウ 研究授業・授業研究会

単元名「登校・始まりの会」

対象：小学部2年、小学部3年、高等部1年、高等部3年 計7名（午後授業グループ）

本時の目標（ア：知識・技能 イ：思考・判断・表現 ウ：主体的に学習に取り組む態度）

ア：顔を拭いたり、挨拶をしたりする中で授業の始まりを意識する。

イ：集団を意識し、友達や教師の声に耳を傾けたり、視線を向けたりする。

ウ：呼名や声掛けに対して、自分なりの表現方法で応える。

評価（○：よかった点 ●：助言）

○それぞれ自分なりの表現方法で反応を示すことができていた。

○自己選択・自己決定の場が設けられていてよかった。

○多数のTTでもよい雰囲気での授業ができていた。

○児童生徒の実態を共通理解していることから、担任外の職員との関わりでも対応できていた。

- 授業の始まりや登校を意識するツールとして登校して来るときに音楽があってもよい。
- アロマオイルを垂らした温かいおしぼりで顔拭きをするなど、嗅覚への刺激があってもよい。
- タクティールケアやタッチケアを取り入れてみてもよい。
- ICTの活用や、流行っている物を取り入れてみるのもよいかもしれない。
- 刺激を与えるだけでなく、静寂が効果的な刺激になることもある。

(2) 2年次

ア アセスメントチェックリストによる実態把握

引き続き、「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト」に取り組み、全職員で共通理解を図った。また、継続して課題とする項目を長期目標や個別の指導計画に活かして作成した。

イ 授業実践「オンライン学習」

1年次は、始まり会の研究授業を通して登校している児童生徒の人との関わりに着目してきた。授業研究会の助言でICTの活用が挙げられたことや、ベッドサイド学習の児童生徒の人との関わりにも着目したいという思いから、2年次は、ポケットWi-FiとiPadを使ってMicrosoft Teamsに接続し、ベッドサイド学習の児童生徒とホールで学習している児童生徒がお互いの様子を見ながら、合同で始まりの会に取り組んだ。

単元名「始まりの会」

ねらい：(1)Microsoft Teams を使用してベッドサイドとホールをつなぎ、同じ学校の友達の声を楽しんだり、お互いの様子を見たりする。

(2)ベッドサイドとホールの児童生徒と一緒に学習に取り組み、一体感を感じる。

【実践①】対象：(午前の部)ベッドサイド児童1名、ホールの生徒6名

<p>ベッドサイドの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールのにぎやかな声を聞いても落ち着いて参加することができていた。 ・起きて参加することができていたように思う。 ・表情が穏やかだった。 	<p>ホールの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面越しに聞こえる声に注意を向け、いつもと違う雰囲気を感じていた。 ・ベッドサイドの児童がテレビに映ると画面に注目したり、聞こえてくる声に耳を澄ませ、顔を向けていたりしていた。 ・ベッドサイド児童の様子をタイミングよく見られないことが多かった。
<p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始前にベッドサイド児童の周辺を映したり、ホールにいる児童生徒を一人ずつ映したりしてお互いの様子を見合う。 ・出席確認の際、ベッドサイドの児童は返事が分かるカードを持ったり振ったりして、ホールの生徒が注目できるようにする。 ・日直を担当している職員は、始まりの会の進行に合わせてベッドサイドにも声をかけ、ホールの生徒を注目させたり、合同で取り組んでいる一体感を感じさせたりする。 ・次回は他のベッドサイド児童も含めて、3ヶ所で接続して全員で始まりの会に取り組む。 	

【実践②】対象：（午前の部）ベッドサイド児童2名、ホールの生徒6名

<p>ベッドサイドの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールの友達の声が聞こえると口角が上がり、声をよく聞いている様子が見られた。今月の歌の場面では、ホールの声が聞こえるとたまに小さく発声することがあった。 ・友達の声が聞こえると、左手の小指を小さく動かすことがあった。 	<p>ホールの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビではなく、スクリーンに映したのでベッドサイド児童の表情や様子がよく見えてよかった。 ・声が聞こえると発声が止まり、不思議そうな表情をしていつもと違う雰囲気を感じていた。 ・前回よりも接続するまでの時間を待てるようになったり、音に慣れてきたりしていた。
<p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続テストではつながったが、本番に上手くつながらなかったため、早めに接続して待機しておく。 ・ベッドサイド児童の顔が画面から切れてしまうことがあったため、相手の画面にどのように映っているか始まる前に確認しておく。 ・声や音に時差があったり、音が途切れて聞こえることがあるため、一緒に声を出して読んだり歌ったりする場面は精選しておく。 	

【実践③】対象：（午後の部）ベッドサイド生徒1名、ホールの児童生徒6名

<p>ベッドサイドの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールの声が聞こえたり、iPadを通して自分の名前が呼ばれたりすると嬉しそうにしていた。 ・ホールの生徒の顔が変わったり、次々といろいろな人たちの声が聞こえたりすると、楽しそうに声を出していた。いつもと違う雰囲気を感じ、楽しく参加することができた。 	<p>ホールの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインは初めてだったが、いつもと同じように始まりの会に参加していた。 ・今月の歌の場面では、全員で紅葉のうちわを持つと、ずっと動かしてみんなと一緒に動きを楽しんでいた。 ・スクリーンは見るが、オンラインに慣れていないため、自分にカメラが向けられると恥ずかしがり、下を向いて顔を上げなかった。
<p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドサイドの対象が一人であっても、スクリーンを使用することで生徒の様子や表情がよく見え、動きに着目することができた。 ・オンラインでのつながりがあることで、登校した時の交流が深まると感じた。参加できそうな学習内容の場合、オンライン授業を計画し、定期的に関わりをもつ機会を作っていきたい。 	

5 成果と課題

(1) 成果

- ・アセスメントチェックリストに取り組んだことで細かい視点から児童生徒の実態を把握し、課題とする項目を長期目標や個別の指導計画に活かすことができた。また、発達段階に適した指導目標を設定し、日々の授業に活かすことができた。
- ・物や人の動きを少なくし、始まりの会に集中できる環境作りを行ったことで、以前より目の前の活動に集中する場面が多く見られるようになった。
- ・始まりの会の場面での呼名や声掛けに対して、手を動かす、視線を合わせる等、一人一人の反応が定着してきた。
- ・言葉の表出が増えたり、機嫌の良い声や表情が増えたり、集団での学習を楽しむ様子がみられた。

- Microsoft Teams を使い、合同で始まりの会に取り組むことで、会う機会が少ない学校の友達の声聞き、様子を見ることができた。
- オンライン授業に取り組み、いつもと違う雰囲気や声の響きの違いなど、児童生徒の実態に応じて気付かされることがあった。
- 合同で始まりの会に取り組む、一緒に学習していることを楽しむことができた。

(2)課題

- 複数回のアセスメントや多人数によるアセスメントの実施は難しいが、個別の指導計画の話し合いの時期に児童生徒の成長や変化について話し合いの時間を設けていく必要がある。
- 担任（担当）以外の教師との関わりを広げていく。
- 五感への働き掛けやICTの活用など、様々な視点から刺激を与えるようにする。
- ICTの活用にあたっては、機器・通信環境・システムのトラブルを想定して、職員間で対応策を共有した上で授業に取り組む。
- 2回取り組んだ児童生徒の方が楽しんで参加したり、いつもと違う雰囲気に気付いたりすることができていたので、実践を重ねていきたい。

6 まとめ

学部研究の推進を通して継続してアセスメントチェックリストに取り組む、人との関わりが広がることを目指して始まりの会における内容の見直し及びオンライン学習の実践に取り組んだ。1年次は、研究授業を通して細かい視点での実態把握、適切な指導目標の設定、学習環境の整備、適切な教師の関わり方が効果的であることを実証することができた。2年次は、ベッドサイド児童生徒も含めた人との関わりに目を向け、ICTを活用したオンライン学習での始まりの会に合同で取り組んだ。ベッドサイド児童生徒は集団学習を経験することができ、ホールの児童生徒は普段見ることのないベッドサイドの友達の様子を見る事ができ、お互いに良い刺激となった。これからもベッドサイドの児童生徒とホールに登校している児童生徒の関わりをもつ機会を継続していきたい。